

【主な出来事】

- 6月2～3日、トランスニストリア問題に関する「5+2」協議の2年ぶりの再開。（於：ベルリン）
- 9日、モルドバ議会は2016年国家予算を第一読・第二読にて可決（今後第三読を予定）。
- 11日、ヴェニス委員会は、モルドバ大統領直接選挙実施に向けた選挙法改正案への技術的提言を実施。
- 交渉マンデートを有するIMFミッションの来訪が7月5～15日の予定であることが明らかに。

1. 内政

大統領選に向けた動き

▼選挙法改正に係る動き。

- ・11日、欧州評議会ヴェニス委員会は、モルドバ大統領直接選挙制に向けた選挙法改正案（議会第一読で可決済み）に係る技術的提言を実施。全体として前向きに評価。
- ・提言の主な内容は以下の通り。これらを踏まえた改訂を経て、議会の第二読が実施される予定。
 - －選挙成立のための最低投票率の見直し。
 - －大統領解任手続の見直し。
 - －候補者の母国語要件は憲法に合致しているが、その審査は合理的かつ客観的であることが必要。
 - －候補者のモルドバ居住期間要件の期間の見直し。
 - －在外投票所設置要件の明確化。
 - －候補者の署名集め、選挙運動等のルールを明確化。

▼野党統一候補擁立を巡る動き。

- ・8日、ナスターセ「尊厳と真実」党党首は諸野党に対し、プラホトニク氏への対抗と統一候補擁立のための公開討論を直ちに開始すべきと呼びかけ。
- ・9日、スルサリ「尊厳と真実」党副党首は、中道右派及び左派の双方と交渉する用意があるとしつつ、不可能な場合は中道右派と合意するとした。
- ・10日、サンドゥ「行動と連帯」党党首は、「尊厳と真実」党及び欧州人民党（及びオブザーバーとして自由民主党）による交渉を実施しているが、欧州人民党及び自由民主党は統一候補擁立に関心がないことを明らかに。
- ・14日、ナスターセ「尊厳と真実」党党首は、統一候補擁立交渉に左派を含めることを提案。「行動と連帯」党、欧州人民党、自由民主党は直ちにこれを拒否。
- ・14日、ドドン社会党党首は対話の用意を表明。同党、「尊厳と真実」党、「我らの党」による第一回協議が既に実施されていることを明らかに。

▼9日、カンドゥ議長発言。

- ・大統領選挙が延期または中止されるとの噂を否定。国際監視団への招待状は既に発出されたと述べた。

憲法裁判所

▼8日、憲法裁の活動に関するタナセ長官のコメント。

- ・欧州専門家により、同裁判所の裁定がEU基準に適合していることが明らかになったとした。また憲法裁は実際には

「政治的機関」である旨強調。

議会

▼2日、議会は中央選管委員の選出に再度失敗。

▼社会党によるフィリプ政府不信任の動き。

- ・シヤラル国防相、フス教育相、アルマシユ財務相など個別の大臣に対する不信任動議を次々と登録。（個別の大臣の不信任動議には15議員の署名が必要。）
- ・9日、フス教育相の不信任案は否決。賛成したのは社会党、共産党、自由民主党で31票。

▼2016年国家予算。

- ・9日、第一読及び第二読で採択。更に第三読を予定。

その他

▼プラホトニク氏の動向。

- ・2日、「プ」氏は、フィリプ首相が近く解任されるとの噂を否定。同首相は経済成長達成と改革実施の能力を有しており、与党連合の完全な支持を得ているとした。
- ・10日、ルプ民主党党首は、「プ」氏が大統領選に出馬しないことを改めて表明し、同氏の首相就任の可能性も否定。
- ・10日、「プ」氏は、当地ルーマニア大使と共に母子病院産科病棟の開所式に出席。同氏が創設したエーデルワイス基金がルーマニア政府と協力してファンド・レイジングを行ったもので、総額100万ユーロ。

2. 外政

▼5月31日～6月1日、ティモフティ大統領のブルガリア訪問。

- ・南東欧協力プロセス首脳会合に出席。Plevneliev ブルガリア大統領と会談。

▼1日、クーンデルス・オランダ外相の来訪。

- ・ガルブル外相と会談、二国間関係、対EU関係、トランスニストリア問題等につき協議。オランダ側より、モルドバにおける大使館開設につき表明。

▼6日、カルムイク経済相のウクライナ訪問。

- ・ウクライナ財務相、経済相、エネルギー次官らと会談。ウクライナ産品のモルドバ輸入制限等につき協議。

▼7日、フィリプ首相のキルギスタン訪問。

- ・CIS首相会合出席。
- ・メドヴェージェフ露首相と会談、両国経済関係の再開と政治関係強化等につき協議。フィリプ首相から、7月5～6日のロゴジン副首相のモルドバ訪問の機会に露によるモルドバ

産品禁輸が解除されることへの期待を表明。

・コビャコフ・ベラルーシ首相とも会談。

▼7日、ヌーランド米國務次官補の議会証言。

・米国の支援によりモルドバ経済の過剰なロシア依存が緩和され、中・西欧市場に向けることができたとした。

▼10日、ソボトカ・チェコ首相の来訪。

・ティモフティ大統領らと会談。大統領は、ロシアがこの地域への影響を維持しようとしていることはモルドバのEU統合の深刻な障害になっていると述べ、トランスニストリアはクレムリンにとっての最初の実験であったとした。

・農業分野での協力メモランダムを締結したほか、両国ビジネスフォーラムを開催。

▼13～16日、カンドゥ議長のルーマニア・ベルギー訪問。

・ブカレストにて、ヨハニス大統領、チョロシュ首相、タリチャーン上院議長らと会談。カンドゥ議長から、ルーマニアによる360万ユーロの人道支援に謝意を表明。1.5億ドルの融資実施についても協議。

・ブラッセルにて、Defraigne 上院議長、EU関係者らと会談。

▼15日、コマネスク・ルーマニア外務大臣と Desir 仏欧州問題担当国务大臣の来訪。

・モルドバに関する欧州行動グループの共同議長として。

3. 経済

▼対IMF関係。

・スネルIMFモルドバ担当理事が来訪、フリプ首相と会談。首相より、メモランダム署名への強い意欲を表明。

・9日、交渉マンデートを有する次回IMFミッションが7月5～15日に来訪予定であることが明らかに。

▼クレマー世銀事務所長のインタビュー(2日)。

・モルドバの最大の問題は汚職で、法律そのものよりその適用に問題があるとの見方。第二の問題は教育・移民の問題に起因する能力の低下。

・銀行スキャンダルにつき、政府高官を含む関係者の処罰を希望。主要な問題は銀行の支配者と融資を受ける者が時に同じ人物であることで、内部融資の問題の解決が必要。

・世銀は9月から4年間の協力プログラムを開始。

経済協力

▼7日、世銀理事会は新たな対モルドバ支援を承認。

・税当局対象の行政府近代化プロジェクト。総額2千万ドル。

▼7日、米国によるモルドバ警察支援。

・犯罪捜査センターに移動ラボ8台(72万ドル相当)を供与。

▼ルーマニアによる支援。

・14日、チョロス首相は、モルドバへの学校用ミニバス100台の供与及び幼稚園改修を表明。総額300万ユーロ。

・14日、駐モルドバ・ルーマニア大使は、対モルドバ融資1.5億ユーロの第一トランシュにつき、モルドバが条件を満たせば7月末～8月前半にも供与されるとの見通しを表明。

4. トランスニストリア

▼2～3日、「5+2」協議の再開(於:ベルリン)

・2014年以来2年ぶりの実施。教育、運輸、電話通信、環境等の分野での協力に係る合意文書に署名。7月半ばに開催される信頼醸成措置に関するバイエルン非公式会合までに作業を活性化することとなった。

・10日、フォローアップとして、水文気象学に係る情報交換に関する合意に署名。15日にはドニエストル川における漁業と資源利用に係る合意に署名。

▼「大統領」選挙成立のための最低投票率。

・8日、シェフチュク「大統領」は、先般「最高会議」が採択した現行50%から25%への引き下げに係る法律に2回目の拒否権を発動。

▼トランスニストリア通貨危機を巡る動き。

・1日、「ト」「中銀」は、通貨情勢の安定のためルーブルの対ドル・レートを12.25～12.75に引き下げることを提案(闇市場での実勢レートは13～14)。「最高会議」は拒否。

・2日、「最高会議」は「中銀」の対応が不適切であるとして総裁の解任を要求。シェフチュク「大統領」は議会を批判。

・9日、「シェ」「大統領」、「政府」、「最高会議」、「中銀」関係者が会合。本件対処のための合同作業部会の設立に合意。

▼15日、「最高会議」は、「ト」におけるロシア平和維持部隊に対する否定的言動を犯罪化する法を採択。

5. その他の情勢

▼キルトアケ・キシニョフ市長解任に向けた動き。

・9日、社会党と欧州人民党はキルトアケ市長辞任を要求。

ガガウズ自治区

▼12～15日、ブラフ長官のペテルブルク訪問。

・「ガガウズの日」を開催、ガガウズの文化・伝統を紹介。現地にガガウズ代表部を開設。ペテルブルク州知事とも会談。

6. 各種統計

▼移民局発表(1日)。

・過去数年で難民申請者数が倍増。2012～13年はシリア難民が中心であったのに対し、2014～15年は大部分がウクライナからの難民。現在の難民数はシリア2,000名、ウクライナ2,000名、トルコ4,000名。

・2日、シリア難民1名がISIS及びヒズボラとの関係を理由に国外追放された。

▼モルドバ経済成長予測。(8日)

・世銀:2016年は0.5%、2017～18年は4～4.5%。

・経済省:2016年は1%、2017年は2.5%、2018年は3.5%、2019年は4%。

・IMF:2016年は0.5%、2017年は2.5%。

・EBRD:2016年は0%、2017年は2%。

▼2015年の平均給与。(9日、国家統計局)

・4,610.9レイ。なお2014年は4,172レイだった。

7. 対日関係

▼モルドバビジネス環境説明会開催。(於:ブカレスト)

・日本企業を対象に、在ルーマニア日本大使館及びモルドバ大使館が開催。モルドバよりイウルク経済省次官が出席。

(了)